



菅生学園初等学校だより

2022年度5月号
校長室だより

呉下の阿蒙 (呉書 呂蒙)

新年度が始まり、あっという間に5月を迎えます。お子さまたちは新しい学年になり、一つ上級生になったという自覚も出てきた頃かと思います。1年生は、小学校生活のペースを掴まれた頃でしょう。しかし、少々疲れも出てくる頃でもあります。休日を上手に利用してリフレッシュしていただけたらと思います。

過日、「1年生を迎える会」が催されました。今回は、縦割り班を中心にした「異学年交流」のスタイルで実施されました。代表委員会や集会委員会のメンバーが中心になり、準備と進行を担当してくれました。また、縦割り班のリーダーである6年生や5年生もとても頼もしく活躍してくれました。これまで以上に先輩が後輩のサポートする雰囲気づくりの一助となるものと微笑ましく拝見をしておりました。お子さまたちの活躍ぶりに「成長」を感じます。

その光景を見ていて思い出したのが上記の「呉下の阿蒙」の故事です。「呉下の阿蒙」は「学問や教養を身に着けず、いつまでも進歩のない人のこと」。阿蒙とは呉の知将として名高い呂蒙のことです。孫策・孫権に仕えた文武両道の武将が、なぜ「教養が無く、進歩のない人間」などと呼ばれたのか？



彼は、子どもの頃に呉に移り住んだそうです。手の付けられない悪童で、腕力だけは強く15歳頃から賊軍の討伐にも参加し、戦場では大活躍して頭角を現しました。程なく部隊を任される指揮官になります。武術に長けていても全軍の司令官に出世するには無学ではなれません。呉の君主 孫権は呂蒙の素直さや武勇を気に入っているものの彼の現状を心配しつつ、優秀な部下の育成の観点からも呂蒙を呼び、「一軍の将になったのだから、学問も身に着ける努力をせよ」と諭しました。最初は「忙しい」ことを理由に渋っていたそうですが、孫権自身も陣中でたくさんの史書や兵法書を読み様々な学びが得られた経験をお話

して聞かせました。この話一念発起した呂蒙は猛勉強をして智・勇兼備の智将に成長したのです。後に呂の名参謀周瑜が呂蒙の屯所に立ち寄って、自分を論破するほどの教養を身に着けた彼に驚き「呉下の阿蒙に非ず」（昔、都に居た頃の呂蒙君とはちがうな。成長したものだ。）と言葉を發したという故事によるものです。この学びの成果を生かし、蜀の名将 関羽との荊州争奪戦で智略を用いて戦わずして荊州を奪うことに成功。この時、関羽は捕えられ処刑されます。

腕力一辺倒の呂蒙を猛勉強に導いた孫権もさすがだと感じました。教壇に立つものとして児童や生徒の指導に模範になる故事です。また、呂蒙もすばらしいですね。自分を振り返ると「忙しい」を言い訳に取り組まないことが多々あります。自分は反省しきりといったところです。

今日の1年生をはじめ、お子さまたちも日々の積み重ねで、「呉下の阿蒙に非ず」となることでしょう。そんな一端ものぞかせてくれた「1年生を迎える会」でもありました。そんな未来を楽しみにしている今日この頃です。

Down with covid19!